

平成25年12月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.23K㎡)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	4,899	8,396	4,216	4,180	10	17
2 千 石	3,399	6,684	3,378	3,306	△ 1	△ 1
3 内 山	4,842	7,096	3,821	3,275	△ 15	△ 13
4 大 和	3,192	6,627	3,320	3,307	17	25
5 上 野	7,230	15,551	7,597	7,954	△ 3	△ 2
6 高 見	6,390	12,510	6,017	6,493	6	10
7 春 岡	6,351	10,464	5,573	4,891	4	7
8 田 代	11,148	21,345	10,198	11,147	8	5
9 東 山	9,705	18,924	9,236	9,688	3	8
10 見 付	4,341	8,357	4,160	4,197	△ 5	△ 20
11 星ヶ丘	3,343	6,599	2,959	3,640	△ 12	△ 18
12 自由ヶ丘	3,501	7,723	3,527	4,196	△ 4	△ 21
13 富士見台	6,343	15,641	7,233	8,408	0	6
14 宮 根	3,678	8,402	3,977	4,425	4	13
15 千代田橋	3,603	8,747	4,093	4,654	△ 2	△ 19
千 種 区 計	81,965	163,066	79,305	83,761	10	△ 3
H24.12.1	81,201	161,957	78,797	83,160	52	104
対 前 年 比	764	1,109	508	601	△ 42	△ 107
名 古 屋 市	1,035,544	2,272,381	1,119,278	1,153,103	319	49
愛 知 県 (H25.11.1)	2,996,915	7,436,707	3,714,820	3,721,887	2,426	1,711

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	101	112	△ 11	716	708	8

【参考】

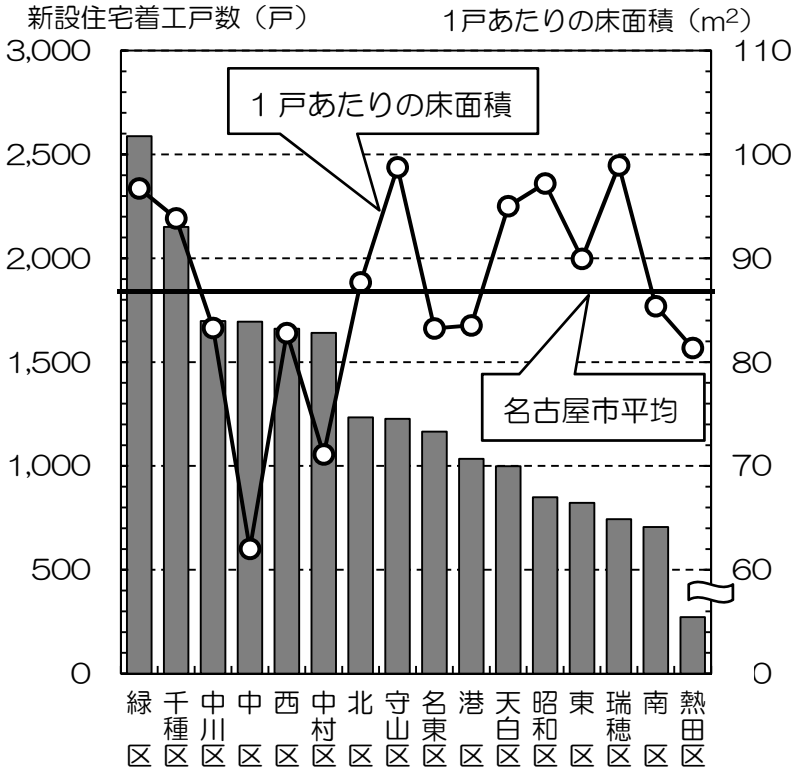
国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和50年	168,861	平成 7年	148,847	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537		
昭和60年	163,762	平成17年	153,118	これまでの最少人口	
平成 2年	156,478	平成22年	160,015	146,727 (平成11年4月1日)	

注) 世帯数と人口は、平成22年国勢調査結果を基礎として、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものです。(平成24年7月中の集計までは、毎月の外国人登録の異動数も加減して推計しています)

千種区の新設住宅着工戸数

平成 25 年 12 月 1 日現在の千種区の世帯数は 81,965 世帯、人口は 163,066 人となり、1 世帯当たり人員は 1.99 人となりました。今回は統計データ（名古屋市統計年鑑）に基づいて、新設住宅着工戸数および 1 戸あたりの床面積を見ていきます。

図 1: 区別新設住宅の着工戸数および 1 戸あたりの床面積（平成 23 年）

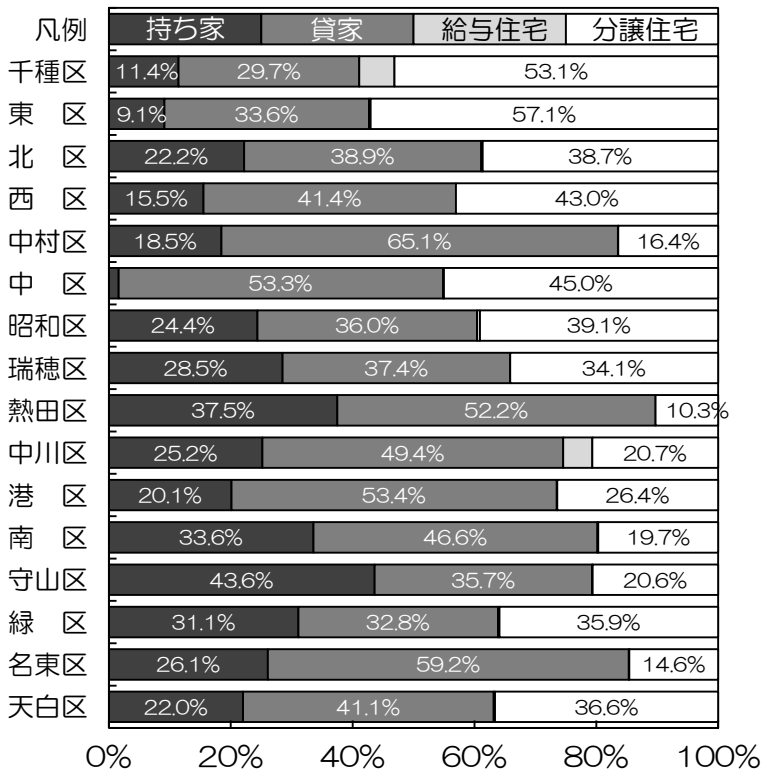


千種区の平成 23 年中の新設住宅着工戸数を見ると（図 1）、千種区（2,151 戸）は緑区（2,588 戸）に次いで第 2 位となっており、名古屋市全体（20,486 戸）の約 10.5%を占めています。

これらの新設住宅着工戸数の、1 戸あたりの床面積を区別で見ると、瑞穂区（99.9m²）、守山区（99.8m²）、昭和区（97.2m²）、緑区（96.7m²）、天白区（95.0m²）と続き、千種区は 93.8m²で 6 番目でした。これは名古屋市平均（86.6m²）よりも 7.2 ポイント高い値です。

それでは、千種区の新設住宅着工戸数の内訳を見ていきます。

図 2: 千種区の新設住宅着工戸数の内訳（平成 23 年）



平成 23 年中の千種区の新設住宅着工戸数の内訳を見ると（図 2）、持ち家の割合が中区（1.6%）、東区（9.1%）に続いて 3 番目に低く（千種区：11.4%）、貸家も 29.7%と 16 区中最も低い割合となっています。

対照的に給与住宅の割合は千種区が 5.8%と 16 区中最も高く、唯一 5%を超えています。また、分譲住宅の割合も東区（57.1%）に続いて 2 番目に高い割合となっています（千種区：53.1%）。

これらのことから、千種区は他の区に比べて社宅が多く、マンション建設などに伴う分譲住宅が多いという傾向が読み取れます。